

1. 総評

(1) 年度初めの学校の状況 【学校の現状及び前年度の成果と課題】

1 学校の現状

- (1) 「あいさつのできる落ち着いた学校」として定着しつつある。
- (2) 基礎学力の定着が厳しい生徒が存在し、定期考査結果や学力調査通過率にはっきりと表れている。
- (3) 学校行事や生徒会活動・委員会活動等には積極的に取り組み、達成感も高い。
- (4) ジョイントコンサートや環境浄化活動等をとおして、地域や関係保育園・こども園・小学校・高校との連携が定着している。

2 前年度の成果

- (1) 「ハイオアシス運動」等、生徒会が中心となって推進し、積極的にあいさつができるようになってきた。また、学校生活には86%の生徒がほぼ満足している。
- (2) 開かれた学校づくり協議会主催のサタデースクールには、前期36名、後期39名の生徒が参加し、外部講師の指導を得ながら22回実施したが、自学自習に取り組める生徒とできない生徒の格差が存在する。
- (3) 地域や関係幼保園・小学校・高校との円滑な連携ができ、健全育成に有効である。

3 前年度の課題

- (1) あいさつのみならず、TPOをわきまえた礼儀作法等をさらに指導する。
- (2) 学習に対して努力が足りないと感じている生徒が約2割存在しており、生徒の学習意欲を高める取組を行い、自主的な学習習慣を身に付けさせる。特に英語科の補習学習等の具体的対策を実施する。
- (3) 地域や家庭、関係教育機関との円滑な連携により、健全育成をさらに推進する。

(2) 今年度の重点目標とそれに向けた取組の概要**重点的な取組事項－1 学力向上（基礎・基本の定着と自主的な学習習慣の形成）**

- ・個別補習の充実：朝10分、国・数・英を中心として理・社、読書活動も含めた学習とする。放課後は20分、抽出生徒を個別指導する。
- ・学力調査に向けた取組：前年度調査の分析を基に傾向と対策による授業改善を各教員が実施し、確認テスト形式で基礎基本の定着を図る。
- ・様々な対策の有機的連鎖の促進：朝・放課後の補充学習、宿題、学習コンテストの関連を強化し各教科80点以上とれるまで再テストを実施する。
- ・サタデースクールの強化：ベーシック・アドバンスコースの2部制とし20名×2学級体制で自学自習に取り組みながら、基礎基本の定着が必要な生徒には外部講師が個別指導にあたる。
- ・小中連携事業による教員研修：小中連携合同研修会として研究授業と分科会を4回実施し、教員の授業力向上と授業改善を図る。

重点的な取組事項－2 生徒が自分たちで学校を良くしようとする意識（愛校心）を育む。

- ・自己肯定感の高揚：学校生活や行事・部活動等をとおして、達成感をはぐくみ、「自分にはよいところがある」という意見を80%以上にする。
- ・自発的自治的な活動の推進：「ハイオアシス運動」「わがままゼロ運動」等への積極的な参加を生徒会が促す。
- ・いじめの根絶：いじめ対策校内委員会を中心に、教職員の共通理解のもと組織として機能させる。

重点的な取組事項－3 小中連携を中心とした地域に根ざした教育活動の実践

- ・小中連携合同研修会：教科ごとの研究授業と協議会を年間6回実施し、他に連絡会、教科部会を実施する。
- ・ジョイントコンサート：11/10(土)足立東高校にて実施し、参加人数400名を超える。
- ・環境浄化活動：PTA・おやじの会協賛で、11/25(日)実施し、参加人数600名を超える。

(3) 今年度の成果と次年度に向けた課題及び解決の方向性**重点的な取組事項－1 学力向上（基礎・基本の定着と自主的な学習習慣の形成）**

- ・個別補習の充実：朝10分の学習は年間を通じて実施できた。放課後はコンテストと考査の事前学習は計画的にできたが、行事の準備等により抽出生徒の個別指導は計画的に実施できなかった。
- ・学力調査に向けた取組：各教員の授業改善と確認テストにより、基礎基本の定着を図ったが、定着度には生徒一人一人に差があった。

- ・様々な対策の有機的連鎖の促進：学習コンテストでは、合格率が国語 95.3%、数学 73.4%、英語 83.4% で数学、英語の合格率は 80%を超えなかったが、各教科 80 点以上とれるまで再テストを実施した。コンテストの前には、家庭学習強化期間を設け、家庭学習ノートの確認を実施した。
- ・サタデースクールの強化：ベーシック・アドバンスコースの 2 部制で、前期 28 名・後期 25 名が参加し、外部講師が個別指導により、年間 23 回自学自習に取り組んだ。
- ・小中連携事業による教員研修：小中連携合同研修会として研究授業と分科会を 4 回実施し、教員の授業力向上と授業改善を図った。

重点的な取組事項－２ 生徒が自分たちで学校を良くしようとする意識（愛校心）を育む。

- ・自己肯定感の高揚：「自分にはよいところがある」という肯定的意見は 1 年 66.3%、2 年 54.0%、3 年 58.0%であった。
- ・自発的自治的な活動の推進：「ハイオアシス運動」「わがままゼロ運動」等、生徒会が中心となって積極的な参加を促した。
- ・いじめの根絶：重篤案件が 1 件発生したが、いじめ対策校内委員会を中心に、教職員の共通理解のもと組織として機能し、早期対応により解消を図った。

重点的な取組事項－３ 小中連携を中心とした地域に根ざした教育活動の実践

- ・小中連携合同研修会：教科ごとの研究授業と分科会を 4 回、全体会を 2 回実施し、他に連絡会、教科部会を実施した。最終回は、講師を招聘し、講演会を実施した。
- ・ジョイントコンサート：11/10(土)足立東高校にて実施し、参加人数 400 名を超えた。
- ・環境浄化活動：PTA・おやじの会協賛で、11/25(日)実施し、参加人数 600 名を超えた。

(4) 保護者や地域へのメッセージ

落ち着いた学校生活を送ることができ、学習や部活動に励んでいるのも、保護者や地域のみなさまのご理解ご協力の賜と感謝しております。

学習面では、基礎学力の未定着な生徒が存在します。今年度より家庭学習の習慣化を図れるよう家庭学習ノートの提出も全校で始めました。教科指導では、基礎基本の定着を重点に授業改善を進めています。また、開かれた学校づくり協議会ではサタデースクールを運営していただき、生徒の学習意欲を向上させていただいております。運動会や学芸展覧会等の学校行事では、保護者や地域のみなさまの多大なるご支援のもと、生徒たちは積極的に取り組み、すばらしい充足感を得ることができています。さらに、ジョイントコンサートや環境浄化活動等、地域のみなさまとご一緒に幼保小中高の円滑な連携が図れています。

今後とも「おらが学校」「地域立中学校」として、学力向上と健全育成に邁進してまいりますので、より一層のご理解ご支援賜りますようお願いいたします。

2. 平成 30 年度の重点的な取組事項

<達成度 ◎:十分に達成 ○:おおむね達成 △:達成せず ●:課題が残る>

重点的な取組事項－1 学力向上（基礎・基本の定着と自主的な学習習慣の形成）

今年度の成果目標	達成基準	実施結果	コメント・課題	達成度
基礎学力定着と学習習慣の確立	区調査通過率 65%	57.8%	目標値に達していない。 数学・英語を強化する。	△

目標実現に向けた取組	達成基準	具体的な方策	実施結果	コメント・課題	達成度
別紙「平成 30 年度学力向上アクションプラン」評価シート参照					

重点的な取組事項－2 生徒が自分たちで学校を良くしようとする意識（愛校心）を育む。

今年度の成果目標	達成基準	実施結果	コメント・課題	達成度
生徒が自分たちで学校を良くしようとする意識（愛校心）を育む。	「学校生活についてほぼ満足である」という肯定的意見を 90%以上にする。	86%が肯定的意見であった。	1 年 90%、2 年 77%、3 年 91%で、2 年生の充足度は低い。	△

目標実現に向けた取組	達成基準	具体的な方策	実施結果	コメント・課題	達成度
自己肯定感の高揚	「自分にはよいところがある」という意見を80%以上にする。	学校生活や行事・部活動等とおして、達成感をはぐくむ。	1年66.3%、2年54.3%、3年58.0%であった。	行事部活動での評価を適切に生徒に指導していく。	△
自発的自治的な活動の推進	取組への積極的な参加、生徒の変容で判断する。	「ハイオアシス運動」「わがままゼロ運動」等への積極的な参加を生徒会が促す。	生徒会、生活委員を中心に「ハイオアシス運動」を展開している。	あいさつのみならず、それ以上の礼節を指導していく。	○
いじめの根絶	いじめの未然防止、早期対応を行い、いじめ発生ゼロを目指す。	いじめ対策校内委員会を中心に、教職員の共通理解のもと組織として機能させる。	第3学年に重大事象が1件発生したが、早期に解消を図った。	前期に発生する率が高いので、注意深く観察しながら指導を継続させていく。	△
生徒会、委員会活動の活性化	行事・部活動に積極的に取り組んだ生徒の割合を85%以上にする。	生徒実行委員会を中心に行事を運営させたり、生徒会朝礼時に各委員会の取組を発表させたりする等、主体的な活動を推進する。	部活動は74%が積極的に取り組んでいるが、未加入の生徒も増加している。	行事には積極的に取り組み、生徒会活動も慣例化してきている。	○

重点的な取組事項ー3 小中連携を中心とした地域に根ざした教育活動の実践

今年度の成果目標	達成基準	実施結果	コメント・課題	達成度
小中連携合同研修会を年間6回実施し、各教科の教員の授業力向上とともに、生徒理解の連携を図る。 おおやたこども園、大谷田第一保育園・ナーサリースクール大谷田、中川東・大谷田・長門小学校、足立東高校、地域と連携を図り、郷土愛の心を育成する。	小中連携研究授業を各校1回ずつと必要に応じた分科会を教科ごとに実施するとともに、児童生徒についての共通理解を図る。 ジョイントコンサート400名以上、環境浄化活動600名以上の参加人数にする。	小学校3校と研究授業を実施し、教科、領域等で協議した。 ジョイントコンサート約400名以上、環境浄化活動約550名の参加であった。	次年度も継続して研究を推進する。 ジョイントコンサートは第30回を盛会に実施し、環境浄化活動は生徒の参加を拡大する。	○

目標実現に向けた取組	達成基準	具体的な方策	実施結果	コメント・課題	達成度
小中連携合同研修会	年間6回実施	教科ごとの研究授業と協議会を実施	研究授業4回実施	家庭学習について共通理解を深めた。	○
ジョイントコンサート	参加人数400名を超える	全体会2回	約400名	次年度第30回を盛会に開催する。	◎
環境浄化活動	参加人数600名を超える	11/25(日) PTA・おやじの会協賛	約550名	円滑な運営協力に感謝する。	◎

3. 学校活動全般について

落ち着いた態度で学校生活を送ることができている。

生徒は、行事や部活動には積極的に取り組み、達成感も高い。また、学校生活に満足している生徒の割合は多い。その反面、基礎学力が定着していない生徒も存在しており、個別の指導を図るとともに、授業改善・指導方法の工夫に取り組んでいく。さらに、昨年度より全校で家庭学習の強化を図っている。

「あいさつができる」といわれているが、現状維持ではなく、さらに質の向上ができる指導・支援を実施していく。

家庭や開かれた学校づくり協議会、おやじの会、地域の方々のご支援ご協力への日頃の感謝をかたちで表せる「おらが学校」「地域立学校」として学力向上と健全育成をさらに推進する。

「平成30年度 学力向上アクションプラン」評価シート

足立区立第十二中学校 校長 水谷 正博

		アクションプラン	達成目標(=数値) 〈いつまで・何を・どの程度〉	具体的な取組内容 〈誰が、何を、どのように〉	実施結果	コメント・課題	達成度 (◎○△●)
1	継続	学習コンテスト	全員が正答率80%以上となることを目標とする。	【取組内容、ねらい・目的】 基礎的な漢字、計算、語彙を身に付ける コンテスト内容を宿題として2週間取り組ませる。その間、宿題内容を朝学習の小テストで確認し、定着が不十分な生徒は放課後補習で定着度が上がるよう指導する。	学習コンテストでは 国語95.2%、数学73.4%、英語83.4%の合格率であった。	今年度より数学は少人数制で指導しているが、成果はまだ弱い。さらに指導を工夫していく。	○
2	継続	放課後補習教室 JumpUpTime	教科担当が設定した目標点を参加生徒の80%が設定した点数を越えることを目標とする。	【取組内容、ねらい・目的】 学習内容におけるつまずきの解消。通常授業内で理解が完全でない内容の問題演習を中心に行う。	定期考査前に各教科担当が指導にあたったが、具体的な数値としては示せなかった。	各教科での補習を計画的に実施していく。	△
3	継続	サマースクール	中1数学特訓の夏休み後の確認テストで、参加者の正答率を10%上昇させる。	【取組内容、ねらい・目的】 当該学年度の前半期の内容、及びそれまでのつまずきを解消する。定期テストで解けなかった問題や、それまでの学習内容で理解が完全でない内容の補充問題を行う。	勉強合宿事前テスト11名57.8%、事後テスト9名51.6%と下降した。	1年数学合宿の事前事後テストでは定着が図れなかったが、他教科の学習では意欲の向上等が図れた。	○
4	継続	家庭学習の習慣化	前期終了までに全校提出率を80%にする。	【取組内容、ねらい・目的】 自学自習の習慣化を図るため、家庭学習ノートを持たせ、毎日提出させる。 提出できない生徒に対して放課後指導等で、学習を終えてから下校・部活動に参加させる期間を設ける。	家庭学習ノートを全校で実施しているが、3回の調査期間で、1年91.0%、2年88.3%、3年60.3%であった。	昨年度より開始し、2年目であるが、学年並びに学級により提出率に差があったので、改善する。	○
5	継続	サタデースクール	年間25回程度実施し、延べ40名程度の参加を募る。	【取組内容、ねらい・目的】 開かれた学校づくり協議会の支援により、ベーシック・アドバンスコースの2部制とし20名×2学級体制で自学自習に取り組みながら、基礎基本の定着が必要な生徒には外部講師が個別指導にあたる。	前期9回28名、後期14回25名、年間23回53名の参加があった。	外部講師が、各回3～5名指導にあたっていただいたが、年間を通しての講師の確保が次年度も課題である。	◎